

“雑草”と呼ばれる
薬草

道端や家の周辺など、ふと目をやると、雑草と呼ばれる草、多いですよ。私たちにとつては、無用なものなので「雑草」なわけです。

ハマスゲは、カヤツリグサ科の草で、方言名を「コーブシ」といいます。非常に繁殖力が強く、根っここの先に塊根をつけ、完全に取らないとまた生えてきます。さらに、この根茎は細い繊維で、引き抜こうとするとすぐに切れてしまうという、畑の強害草です。

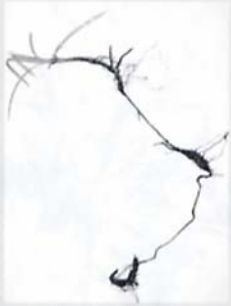
幸地での話によると、これはチリピラ（ニラ）によく似ているので、ニラ畑に生えると見分けがつかないのだそうです。肥料を入れても、コーブシに養分がいつてしまうというかなりの厄介ものだとか。

そういう性質は、人間の性格にも例えられているようです。翁長や我謝、桃原では屁理屈を言う人、難しい人にコーブサー（コーブシー）といった、あまりいい意味では使われないそうです。

典型的な「ヤナグサ」としてあげられるコーブシですが、厄介なだけではないことが判明！呉屋で、ンムグワー（塊根）を切って乾燥させると、香りの良い、甘味のあるお茶になるということをお茶にいただきました。さらには、薬草として、ヒラファグサ（オオバコ）と一緒に煎じて、熱さましにも利用したそうです。

このコーブシという名前は中国から入ったもののように、ハマスゲの根の生薬名「香附子」を音読みしたものとされています。「香」という字が用いられているように、呉屋で教わった通り、芳香があるとのこと。漢方薬にも利用され、香りが強いものほど良いとされているようです。

雑草ひとつから、本当にいろいろな話が飛び出します。それらは、植物が今よりもっと、人びとの命の営みに深く関わっていたことを感じさせます。



膨らんだ部分が
「ンムグワー」